時事解説

韓国における農薬市場と動向

バイエル クロップサイエンス株式会社　Woo Hyun（ウー ヒュン）・波田（はだ）　康弘（やすひろ）

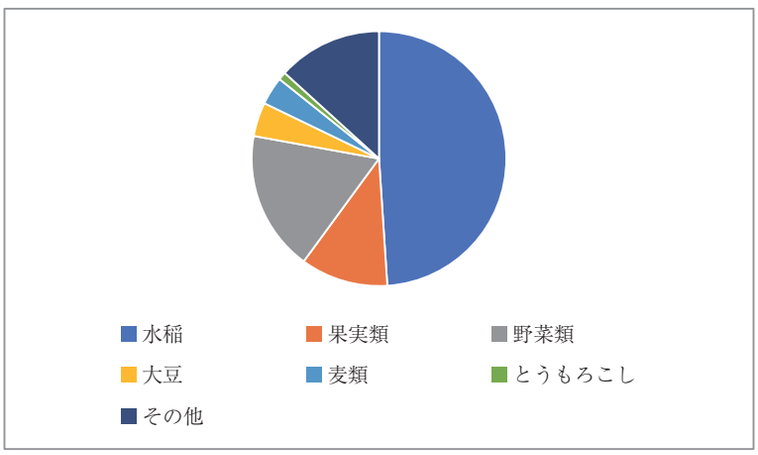
は　じ　め　に

韓国の農地面積は約150万ha（2022年）で国土の約15%を占め，年平均約−1.3%（2016〜22年）ずつ減少しており，今後も都市開発，農家の高齢化の影響による耕作放棄等で，年平均約−0.9%で減少していくことが予想されている。農家人口は約217万人で（総人口の4.1%），農家の平均年齢は65歳を超えている。農地面積は減少傾向ではあるが，成熟市場におけるブランド作物，規模拡大，集約的な栽培，収益性の高い果樹野菜マーケットを背景に，作物生産量と商品価格は安定している。しかし，商品価格の変動要因としては気候変動，問題となる病害虫の発生，労働力不足などがあげられる。また，食の安全性を追求した高品質の商品（ハウス栽培の作物等）の需要が高くなっている。農業にとって厳しい環境が，新たなイノベーションやスマート農業を活用した集約的な農業を後押ししているともいえる（図−1，2，3）。

I　主要病害虫と農薬のトレンド

韓国と日本両国の気候，作物は似ており農地に発生する病害虫も大きな違いはない。近年の気候変動により水稲においては紋枯病，ニカメイチュウ，コブノメイガの発生が増加傾向である。水稲用農薬市場の成長を牽引するものとしては，水稲箱処理剤や日本同様に水田雑草の防除のためのドローン散布やラジコンボートによる散布を導入することだが，ドローン散布の登録についての柔軟性は低い現状である。つまり，地上散布と同じ薬量/ha（同じ対象作物，有効成分，散布薬量，散布時期であっても）を使用する場合でも，ドローン散布には残留試験データが必要である。

野菜・果樹においては，従前から炭疽病が主な病害であり，また，2015年に初めて国内で確認されて以来，リンゴやナシの火傷病の被害の拡大が大きな問題になっている。また，気候変動によりアザミウマ類，ナシヒメシンクイ，等の海外からの侵入害虫や，細菌病害の発生による被害が拡大している。



図−1　作付面積（2022年，出典：韓国統計庁）
水稲 果実類 野菜類 大豆 麦類 とうもろこし その他.

Pesticide Market and Trend in Korea.　By Hyun Woo and Yasuhiro Hada
（キーワード：韓国統計庁，RDA，シタベニハゴロモ，火傷病，ラジコンボート，NACF）

植物防疫